

三角協力プロジェクト形成調査団（フェーズⅠ） 1999年12月8日～12月17日

調査項目① UNDP「三角協力モニタリング・評価」に関しTOR、評価内容についての協議を行う。

背景① 1992年12月から開始された第一フェーズのプロジェクト活動資金の拠出先は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）であったが、1994年2月からの第二フェーズから、国連開発計画（UNDP）に変更され、三角協力基金としてUNDPへの拠出金が確保されていた。しかし、1998年8月からの第三フェーズは同じUNDPへの拠出金であるものの、人づくり基金の1コンポーネントとなっており、他の同基金によるプロジェクトと同様に、モニタリング・評価を行うこととなった。

報告概要① UNDPカンボディア事務所にて関係機関会議が開催され、UNOPS作成のモニタリング・評価TORドラフトに沿って各項目ごとの確認がなされ、本評価の調査必要経費の確認、大枠でのスケジュール確認がなされ、Work Plan等の詳細についてはコンサルタントとプロジェクト関係者で協議していくこととなり、評価内容についてもUNDP独自の一方的な評価ではなく、日本側の意向も反映することが期待できる結果となった。また、コンサルトとの第1回会議にてスケジュール、モニタリングチームの選出法、便宜供与などについて協議を行い、Work Planの提出日程などの合意が得られた。

調査項目② 今後のプロジェクトの中期的な協力計画策定のための関係者と協議を行い、協力計画素案を作成する。

背景② 本プロジェクトについては、国連への拠出金（Japan Fund）の活用、ASEAN専門家の派遣などの事情により、プロジェクト方式技術協力のように特定の年限を区切ることなく、1年ごとに協力を延長するという方式で実施が進められてきたことから、協力の中長期的な展望が必ずしも関係者の間で合意されるにはいたっていなかった。

報告概要② 農村開発省次官H.E Mr. Ngy Cyanpalと、今後の三角協力の事業実施に際して、カンボディア政府側負担の可能性に関し1)人件費の負担、2)プロジェクト施設の運営移管、3)プロジェクト活動の移管、4)プロジェクト運営の移管などの協議を行い、カンボディア政府予算要求、農村開発省からのプロジェクトへの人材派遣など前向きな意見がなされ、今後も検討していくこととなった。

また、プロジェクト関係者、JICAカンボディア事務所などと今後の「三角協力」について協議し、2004年3月を一つの区切りとした計画を行い、PDM(案)を作成した。今後、この案を基に外務省、JICA、協力隊事務局、JICEなどと協議を行いPDM(最終案)を作成し、2月下旬に予定されている三角協力プロジェクト形成調査団（フェーズⅡ）の際、農村開発省へ提示するとともに、3月にUNDPへ提出予定の計画書にも反映したいと考えている。

三角協力プロジェクト形成調査団（フェーズII） 2000年3月12日～3月18日

-調査項目①- 12/20～1/21のUNDP「三角協力モニタリング・評価」及び、2/21～2/25のフォローアップについてUNDPと協議するとともに、今後の三角協力の計画（4か年計画）につき意見交換を行う。

-調査項目②- 農村開発省（MRD）に人件費・センター移管などの検討状況の説明を受けるとともに、来年度計画及び4か年計画概要につき協議する。

-背景- 三角協力プロジェクト形成調査団（フェーズI）の報告を受け、外務省、JICA、協力隊事務局、JICEなどで協議を行い、2004年3月を一つの区切りとしたPDM(案)、4か年計画(案)を作成。

-報告概要①- 4か年計画（案）は、昨年外務省技術協力課長がUNDPNYのTCDC部長と会談した際に予算を含む今後の見通しが必要と要請され、本年3月に回答することとなった経緯を説明した。今後、必要箇所の修正を行ったあと、プロジェクトからUNDP現地事務所に提出する予定であり、3月末までにUNDP本部に提出されるよう要請した。日本側としても、4か年計画以降もこれまでのマルチの協力体制から二国間の協力体制に移し、継続して協力支援していきたいと考えているが、事業継続のいかんはMRD側の自立運営に向けての努力にかかっている旨を強調した。UNDP「三角協力モニタリング・評価」報告で重要視された、カンボディア側のOwnershipの強化、評価モニタリングシステムの再構築についても配慮し4か年計画に反映している旨説明し、了解を得た。

また、UNDP「三角協力モニタリング・評価」に関し、我々が今後円滑な事業移管に必要な要件が明らかにされ、また、多くの事例紹介は非常に有益であり、高く評価している旨説明。フォローアップでは、今後の事業移管に向けてカンボディア側の投入が最重要課題であることが強調されており、2000年度の事業計画のなかで、今回の提言内容、カンボディア側の投入について具体的な検討を行うこととなった。

-報告概要②- 協力期間については、UNDPの同意が必要なものの、日本側として、この形態で2004年3月までプロジェクトを継続していく考えを伝えるとともに、4か年計画は、MRDへのプロジェクト移管を前提としており、自立発展のため尽力するよう要請した。また、4か年計画をUNDP提出することとなった経緯を説明し、併せて、MRDとしても今後4年間の協力継続が自立発展に不可欠である旨、UNDPに公式表明するよう求めた。

2000年は、これまでの活動及び実績を基に、今後のプロジェクトの実施計画を策定すべき Reformulation Year と位置づけ、活動内容や範囲を拡大するのではなく、現状の把握と問題点の抽出・整理及びプロジェクト対象農村における活動の実証調査を行い、事業の効果、効率化をめざすことで持続可能な農村開発手法を移転する方針とすることで了解を得た。

人件費・センター移管等カンボディア政府側負担の検討状況については、現在、農村開発国家政策を策定中であり、2000年度予算要求のなかに Integrated rural development project なる農村開発事業を予算計上している旨表明された。また、MRD及び地方自治体がプロジェクトの指導のもと、主体的にRDRP事業を実施する mini-RDRP について、2000年度はプロジェクト予算によって実施するものの、2001年度以降、MRD事業として予算要求される旨説明された。

-調査項目③- ASEAN各国大使館と、ASEAN専門家投入数の減少に係る説明を行い、ASEAN各国大使館に理解を求めるとともに、4か年計画概要の説明を行う

-調査項目④- プロジェクト関係者及びJICA事務所と4か年計画(案)を基に、ASEAN専門家・JOCVの投入、第三国専門家活用なども含め、来年度の計画を策定するとともに、4年間計画の大枠の協議を行う

-背景- 三角協力プロジェクト形成調査団(フェーズI)の報告を受け、外務省、JICA、協力隊事務局、JICEなどで協議を行い、2004年3月を一つの区切りとしたPDM(案)、4か年計画(案)を作成

-報告概要③- ASEAN4か国大使館へ、これまでの協力に対する謝意を表明するとともに、事業移管計画に伴う専門家派遣数の漸次削減について説明、及び了解を得、2004年までの継続協力を要請した。

ASEAN各国大使館は、本件協力は極めて裨益効果が高く、協力の継続は不可欠であるが、カンボディア側の自助努力もまた必要であると認めるものであった。特に、新ASEAN加盟国に対する協力は不可欠であり、今後とも日本を含めた各国の協力が必要であるとの意見も聞かれた。

-報告概要④- カンボディア政府の開発計画では、農村開発、教育、保健、農業の各省の機能強化を優先しており、予算措置もウエイトが置かれることとなっている。加えて、フンセン首相も農村開発の重要性を強調し、日本政府への本件協力に対する謝辞とともに継続した協力を求めている。よって三角協力に関しては、UNDPを通じた協力は2004年までにフェーズアウトするものの、JICAの二国間による協力は継続する方向で検討する必要がある。つまり、事業としては、フェーズアウトではなく予算のReplacementであり、その多様化を図るものと理解される。しかしながら、カンボディア側の財政状況では、MRDがmini-RDRP等の投入を漸次拡大するとしているものの、持続発展可能なシステムを確立して事業を移管するためには二国間での協力(各種スキームの活用:見返り資金、プロジェクト式技術協力、第三国専門家、JOCVなど)による支援が不可欠であることを確認した。

15. 三角関係協力プロジェクトの自立発展に向けた課題

三角関係協力プロジェクトの自立発展に向けた課題

1) CDW、カウンターパート、スタッフの人件費などのプロジェクト負担

	人 数	月額	月額計
CDW	28	100	2,800
カウンターパート	60	80	4,800
			7,600

		人 数	月額計
プノンペン事務所	APM1	1	330
	事務要員	8	1,535
	ドライバー	2	350
	警備員	4	620
トラムクナセンター	事務要員	4	760
	ドライバー	21	3,695
	警備員	40	6,020
コンボンスプーメインセンター	事務要員	1	195
	警備員	12	1,310
コンピセイサブセンター	事務要員	1	195
	警備員	3	295
タケオサブセンター	事務要員	1	195
	警備員	3	295
サムロントンサブセンター	事務要員	1	195
	警備員	3	295
		105	16,285

上記、計約\$288,000(\$24,000×12 か月)すべてを、これまでプロジェクトが負担してきており、今後センターの移管、プロジェクトの縮小などで負担額を減少したと仮定しても、ミニマムで農村開発活動を行うための人件費として\$28,800 (CDW とカウンターパート 30 名のみで計算：\$80×12 か月×30 名)が必要となる。

なお、今年度の農村開発省の予算総額は\$2,000,000 (1999 年度の 2 倍)。

II) MRD (農村開発省)、州、郡レベルでのキャパシティービルディング

これまで、村及びコミューン (区) レベルで、農民グループの形成などを通し、持続可能な総合農村開発手法の確立、普及を行ってきた。また、農村開発省などからの CDW やカウンターパートなどの人材育成も同時に行ってきた。

しかしながら、カンボディアの情勢・状況から農村開発省、地方自治体の機能強化は行われてきておらず、特に農村開発省のプロジェクトに対する主体的な取り組みはほとんどない状況であった。今後は、自立発展に向け MRD、州、郡レベルにおけるキャパシティービルディングが大きな課題となる。

三角協力プロジェクトの課題解決のための方策（案）

1) CDW、カウンターパート、スタッフの人件費、維持費、活動費の確保

4 年計画の最後の年にあたる 2004 年 3 月までに、三角協力の人件費、維持費、活動費などの予算がカンボディア政府(MRD)により負担されることが望ましいものの、国家財政の 5 割以上が海外援助に依存し、かつ国防費が 35%を占めるカンボディアの現状ではこれらの費用を負担していくことは極めて困難であると予想される。

以上のことから、今後も引き続きカンボディア政府(MRD)には予算負担を求めていく一方、これまで三角協力の IVM 活動村において行われてきた PRM (Partner Revolving Material)システムを活用し、CDW (Community Development Worker)の人件費を確保する財源捻出法を実証調査（トライアル）の中で検証し、今後 4 年間で確立することをめざす。

CDW 財源捻出法

1) IVM 活動参加費徴収 \$300（1 か村）

Meeting Hut（集会所）建設材料費、PRM 原資購入費、技術習得訓練費用など 3,000\$が村に投入されることを前提に参加費を徴収する。

2) PRM(Partner Revolving Material)利息から 5%の Contribution

現行の PRM 利息 10%を Farmer's Group に返納させるシステムから、5%を Farmer's Group に、5%を MRD へ Contribution させる

例) 2000 年度 20 か村で活動を展開し、これまで PRM システムを活用してきた村から 5%の Contribution が徴収され、CDW1 人当たりの給与を月額\$100 とした場合

・参加費徴収	$300 \times 20 \text{ か村} = \$6,000$
・PRM 利息 5%の Contribution	$1,000 \times 20 \text{ か村} \times 5\% = \$1,000$
・これまでの村からの PRM 利息 5%の Contribution	$247,000 \times 5\% = \$12,350$

上記の合計は\$19,350 となり、\$80×12 か月で割ると 20 名の給与の確保が可能となる。

II) MRD (農村開発省)、州、郡レベルでのキャパシティービルディング

1) MRD 及び地方自治体の機能強化

MRD 主体で活動を展開する MRD 農村開発プロジェクトスタートに向けた基盤づくりを行う。

なお、JICA 専門家のカウンターパート、かつ MRD 農村開発プロジェクトのスタッフとして、6 名があげられた。

名 前	所 属
Mr. Kong Sakhan	Acting Director, Department of Community Development, MRD
Mr. Khim Sun	Chief of None Formal Education, Department of Community Development, MRD
Mr. Heng Peng Hong	Deputy Chief of None Formal Education, Department of Community Development, MRD
Mr. Phann Saphoerun	Director of Rural Economic Development Department, MRD
Mr. Kong Sarhan	Deputy Director of Community Development Department, MRD
Dr. Chea Samnang	Director of Department of Rural Health Care, MRD

2004年4月以降のプロジェクト継続(案)

	2004年3月までの活動 (PDM案)	2004年3月までの投入	2004年4月からの対応案
プロジェクト マネージメント	<ul style="list-style-type: none"> ・MRD 及び地方自治体スタッフの管理能力育成 ・MRD 農村開発事業が選定された村で実施される 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA Experts ・ JICE Staff ・ MRD Staff 	<p>農村開発省(MRD)がプロジェクトに対し、どれだけオーナーシップをもって関与しているか、予算の負担状況など検証したうえで計画する必要はあるが、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 個別専門家派遣 (農村開発アドバイザーなど) 2) チーム派遣 3) プロジェクト方式技術協力 <p>などの協力を通じプロジェクトマネージメントを支援</p>
IPV(総合農村 開発手法)活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ Farmers group の民主的な組織化 ・ Meeting Hut 及び Basic なインフラ(主に生活道路等)の住民参加による建設整備とその活用 ・ PRM 制度の導入 ・ 新農業技術、識字教育、公衆衛生などの指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ UNDP Funds ・ ASEAN Experts ・ JOCV Members ・ カウンターパート ・ CDW 	<p>プロジェクト継続期間の設定、IVM 活動村の設置目標数などを明確にし、計画する必要があるが、</p> <p>1 村当たり 3,000\$×目標数の予算を、ノン・プロジェクト無償援助、食料増産援助(2KR)の見返資金制度を活用し、活動を支援</p>
教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ UNDP Funds ・ JOCV Members ・ カウンターパート ・ CDW 	<p>学校建設は草の根無償を利用していること、多数の NGO が学校建設に携わっていることから、プロジェクトでの活動はフェーズアウトしていく。</p> <p>クラスタースクールでの活動は、協力隊員で継続していく、あるいは教育関係専門家がフォローアップ。(教育アドバイザー・初等教育改善など)</p>
職業訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業訓練実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ UNDP Funds ・ ASEAN Experts ・ JOCV Members ・ カウンターパート ・ CDW 	<p>センター移管状況を検証し、計画する必要があるが、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カンボディア政府で運営 2) NGO と連携し運営 (開発パートナー事業など)

プロジェクトの人的・物的投入の代替案

ASEAN 専門家 → 第三国専門家として派遣する。

JOCV → 継続的に協力隊員を派遣。

プロジェクトオフィス → 1) プロジェクト実施事務局を農村開発省(MRD)内に設置する。 2) ترامクナセンターまたは他センターをプロジェクトオフィスとする。

17. 第三国専門家活用(案)

カンボディア三角協力における第三国専門家活用に関して(提案)

カンボディア難民再定住・農村開発計画(通称:三角協力)は、JICA専門家、ASEAN4か国(インドネシア、マレーシア、フィリピン及びタイ)からの専門家、協力隊が共同で農業、公衆衛生、教育、生計向上などの多岐にわたる分野で、カウンターパート及び地域住民に対して技術指導を行ってきており、これまでに総合農村開発村「IP(Integrated Project)」が約200か村で展開され、CDW(Community Development Worker)100名が育成されるなど、着実に成果を上げ現在に至っている。

三角協力については、国連への拠出金(Japan Fund)の活用、ASEAN専門家の派遣などの事情により、プロジェクト方式技術協力のように特定の年限を区切ることなく、1年ごとに協力を延長するという方式で実施が進められてきた。今後の三角協力の計画については、現在関係機関で検討中であるものの、これまでと同様に国連(UNDP)への拠出金を活用した形態で、2004年3月までプロジェクトを継続していく予定である。しかしながら、UNDPからのプロジェクト予算が減少することから、1996年度まで各国10名ずつ、その後今年度まで8名ずつ派遣されてきたASEAN専門家の投入は来年度は各国5名ずつに減少され、その後も年度ごとに各国1名ずつ減少し、2003年度には各国2名ずつ合計8名になる予定である。

三角協力におけるASEAN専門家の果たす役割は非常に大きく、ASEAN専門家投入の減少がプロジェクトに与える影響が多大なことから、今後第三国専門家のスキームを活用し「農村開発手法の定着」を図りたいと考える。その際、現行の積算で第三国専門家を三角協力へ派遣した場合、これまで派遣されてきたASEAN専門家との待遇(滞在費)が違い過ぎることから、処遇に関する「三角協力専用の第三国専門家活用案」が必要だと考え、提案させて頂く。

なお、本提案は現行の第三国専門家スキームの予算より増加しASEAN専門家を派遣したいという旨ではなく、逆に低くしてほしいという提案であることを理解して頂いたうえで検討して頂き、コメントをお願いしたい。今後、コメントを基にJICA本部(案)を作成し、関係JICA事務所と協議し、実施に係る計画案を作成する予定である。

カンボディア三角協力における第三国専門家活用に関して

プロジェクト形成調査団（フェーズⅠ）の報告・提言

1999年12月8日～12月17日に派遣された「三角協力プロジェクト形成調査団（フェーズⅠ）」より、2004年3月を一つの区切りとしたPDM(案)が提出され、本案を基に外務省、JICA、協力隊事務局、JICEなどと協議を行いPDM(最終案)の作成を行っており、本PDMは農村開発省へ提示するとともに、3月にUNDPへ提出予定の計画書にも反映させる予定である。

プロジェクト活動資金がUNDP三角協力基金から、人づくり基金への拠出金に変更され、UNDPの1コンポーネントとなったことから、三角協力プロジェクトと他プロジェクトへの予算のバランスを取る必要があるなどの理由から、今後UNDPから三角協力への予算は年々減少していくとの方向で、外務省/UNDPレベルで協議がなされている。そのため、三角協力の事業実施に際して、1)人件費の負担、2)プロジェクト施設の運営移管、3)プロジェクト活動の移管、4)プロジェクト運営の移管などのカンボディア政府側負担の可能性に関し調査団と農村開発省間で協議が行われ、先方より、カンボディア政府への予算要求、農村開発省からのプロジェクトへの人材派遣など前向きな意見があり、今後も検討していくとの報告があった。また、三角協力予算減少に伴い、ASEAN専門家の数も減少せざるを得なくなるものの、下記の理由により本プロジェクトにおけるASEAN専門家の必要性は非常に高いことから、第三国専門家スキーム活用などの提言がなされた。

・三角協力の三角（三角形）とは「カンボディア」「日本」「ASEAN諸国」の三点を表しており、ASEAN専門家はその大事な一点を占めている。

・カンボディアの農村社会は、ASEAN専門家のそれぞれの農村社会と社会構造や農民のメンタリティーが似かよっており、もともと自国の農村社会で経験を積んできているASEAN専門家にとって、特に異質な社会でないと考えられる。

・乾期作水稻の高収量優良種の導入とその採取や、熱帯果樹の無性繁殖による優良系統苗の増殖など、カンボディアの農村の状況に適した、現実的で移植可能な適性技術をASEAN専門家が有している。

・プロジェクトの持続性をめざしたカウンターパート及びCDW（農村開発普及員）の育成にASEAN専門家の指導は不可欠である。

第三国専門家スキームの活用

調査団の報告を受け、ASEAN専門家の必要性が高いことを確認するとともに、第三国専門家スキームを活用する際の基本となる計画案、及び実行する際

の問題点などの検討を行った。

ASEAN専門家（1年通年）の投入数を2004年に向けて、年度ごとに各国5名、4名、3名、2名ずつと減少させていく計画を基に、まずASEAN専門家の分野を決定し、その専門家で不足となる分野の専門家を第三国専門家で補う。その際、派遣時期は分野の特性を活かせるよう配慮する必要がある。（表-1参照）

表-1 第三国専門家スキーム活用（例）

分 野	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	理 由
Rice Growing			●	●	●	●							田植時期の稲作指導
Vegetable, Subsidiary crop							●	●	●	●			稲作の前後に作付け指導
Fruit crops, Plant Propagation			●	●	●	●	●						苗の育成、移植指導 (乾期も可だが、雨期がメイン)
Mushroom culture							●	●	●	●	●		気候的にこの時期がベスト
Animal Husbandry			●	●	●	●	●	●					雨期に多発する家畜の下痢等病気対策指導
Fish culture			●	●	●	●	●	●					基本的に雨期がシーズン
Food Preservation							●	●	●	●			特にシーズンはないが、農閑期の方が受講者を集めやすい
Vocational Training		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	コース日程（3か月）に合わせる

派遣時期や派遣に伴う細部に関しては、ASEAN 諸国との協議が必要であるものの、実施が不可能になるような問題点はないと思われる。しかしながら、第三国専門家と ASEAN 専門家の処遇につき、以下のような相違が見られる。

現在、ASEAN専門家の生活費（滞在費）は月額\$900で、来年度より月額\$1,000となる予定である。一方、専門家制度グループが作成した第三国専門家待遇（参考資料A）を基に滞在費（日当・宿泊料）の支給額を積算すると、現行の場合（実行欄）では月額平均\$3,107（日当\$31×30+宿泊\$94×29/31日以降9割/61日以降8割）、アシスタントクラスの専門家、6か月派遣・住宅提供の場合（予算積算欄）でも、月額平均\$2,662と来年度のASEAN専門家予定額（\$1,000）の2.6倍強もある計算となってしまう。（表-2参照）

表-2 滞在費（日当・宿泊料）を米ドルに換算（1\$=¥105で計算）

<住宅が提供された場合（宿泊料×0.8）>

	専門家6号丙	\$3,131	\$5,950	\$8,455	\$10,960	\$13,465	\$15,970
滞在費(日当・宿泊料)	(下段：1月平均)	\$3,131	\$2,975	\$2,818	\$2,740	\$2,693	\$2,662

上記のように、現行の積算で第三国専門家を三角協力へ派遣した場合、ASEAN専門家との待遇（滞在費）が違い過ぎることから、公平性を欠くこととなり、また、ASEAN専門家と第三国専門家のTORに大きな違いはないことから、処遇に関する三角協力専用の第三国専門家活用案が必要だと考える。

留意点

平成9年3月1日～3月8日及び平成12年3月5日～11日の計2回、カンボディア農村開発省で開催された「地域開発セミナー」でのプレゼンテーションのため、第三国専門家スキームでシニアクラスの専門家を派遣してきたが、今後も同様のセミナーが開催されASEANからのシニア専門家が派遣される場合、これまでどおり現行の第三国専門家の処遇を適用する。

以上の事項を基に、カンボディア三角協力における第三国専門家の必要性とともに、本案を検討して頂くため、三角協力における第三国専門家活用案を提示させて頂く。

三角協力における第三国専門家活用（案）

カンボディア三角協用に派遣される第三国専門家(以下：専門家)は、6か月未満の短期専門家とし、それぞれの分野の特性を活かせる時期に派遣され、カンボディア農村での経験を有する三角協力ASEAN専門家(以下：ASEAN専門家)経験者を優先する。専門家の身分は「第三国専門家派遣事業資料集」の第三国専門家と同等に処遇するものの、滞在費などの待遇は、対象となる年度のASEAN専門家の待遇に準じ、支給されるものとする。

- 1 留意事項 — 「第三国専門家派遣事業資料集」と同様
 - 2 身分関係 — 「第三国専門家派遣事業資料集」と同様
 - 3 身分・処遇に関する用語説明
 - 3-3 長期派遣専門家と短期派遣専門家—短期専門家のみのため、削除
 - 3-5 支度料 — ASEAN 専門家には支度料として一律\$150 支払っており、健康診断(上限\$250)、保険の加入経費(\$1,000 未満)などは別途支払われている(計\$1,400 未満)。専門家の場合、定額渡切りで 77,00 円となっており、ASEAN 専門家の方が費用が高くなっていることから、**要協議**
 - 3-6 内国旅費 — ASEAN 専門家には支払われていないため、削除
 - 3-11 所属先管理経費 — 専門家のほとんどが政府職員であること、ASEAN 専門家の所属先負担が行われていないことから、削除
- それ以外の 3-1,-2,-4,-7,-8,-9,-10 — 「第三国専門家派遣事業資料集」と同様

4 第三国専門家の処遇

- (1)滞在費 — 月額\$1,000
- (2)支度料 — **協議後決定**
- (3)空港使用税 — 各空港の空港税(US\$)を適用
- (4)内国旅費 — なし
- (5)赴帰任のための日当・宿泊料 — なし
- (6)予防接種料 — 専門家の領収書による請求を受け、実施払い
- (7)所属先管理経費 — なし

18. UNDP 提出 4 か年計画案

UNDP 提出 4 か年計画案

- I. 4 か年計画方針
- II. 4 か年計画予算案
- III. 2000 年活動内容
- IV. 2000 年 4 月～2004 年 3 月まで年次計画
- V. プロジェクトデザインマトリックス

I. 4か年計画方針

本プロジェクトは、1994年より活動が実施され、一時的な武力衝突及び総選挙後の政情不安によってプロジェクトのスケジュールが大幅に遅延したものの、タケオ、コンボンスプー両州の難民再定住と農村開発に成果をあげてきた。

プロジェクトは今、大きな転換期を迎えている。貧困対策を含む農村開発を重要課題として取り組んできたこれまでの実績を集大成し、カンボディアにおける農村開発のモデルとすべく、自力による離陸の時期を見据えてプロジェクト活動を推進する必要がある。

離陸に際しては、名実ともにカンボディア独自のプロジェクトとして持続可能な形で引き渡しを行わなければならない。

本プロジェクトは今後4年間に於いて、カンボディア側へスムーズに移譲し、以降の自立的発展を促すことを目的として以下の点を提案する。

特に2000年度については、これまでの活動及び実績を基に、プロジェクトの実施計画を策定すべき Reformulation Year と位置づける。そのため、活動内容や範囲を拡大しないことを前提として従来の事業を継続しつつ、現状の把握と問題点の抽出・整理及び参考となる他援助機関プロジェクトの調査研究を行う。また、プロジェクト対象農村における活動の実証調査に主眼を置くことを基本方針とする。

1. プロジェクトの目的と経緯

プロジェクトの目的は、プロジェクトドキュメントにあるとおり、難民の再定住を押し進めながら農村開発（＝貧困対策）に重点を置き、国内外難民、除隊兵士及び地域農民を対象としたタケオ、コンボンスプー州農村全体の生活向上であった。プロジェクトによる投資は定住を促し、さらに、投入地域の生活向上に大きな成果を残してきた。

プロジェクトは武力衝突及び総選挙によって一時的に活動の縮小を余儀なくされたが、情勢の安定化に伴い、今後は、これまで得られた成果の持続的、発展的な伝播を可能とする時期を迎えたといえる。

カンボディアのGDPは依然として農業分野での付加価値が40%を超えており、国民の85%が農村地域に住みその多くが貧困にあえいでいるところ、対象2州住民への直接支援を継続して行うこととする。それと並行し、次期4か年では、上位目標であるタケオ、コンボンスプー州の貧困緩和に資する開発手法の定着を図り、将来的には、カンボディア政府によって、この開発手法が他州においても行われることで、同国の地方開発と貧困緩和に資することが期待される。

2. プロジェクト移管に向けた今後の4か年計画

(1) 人的開発の強化とカンボディアの自助努力

カンボディアの農村は長期にわたる内乱で極めて疲弊しており、また村としての組織が破壊されている地域が多くある。プロジェクトは各農村でインテグレイテッドプログラム（IP）を中心的な活動としている。IPは、ASEAN 専門家、JOCV による多角的な技術指導を行うことで、総合的な農村開発をめざしている。これにより自立能力、各種支援の受入能力を高め、疲弊した村に発展の基礎が構築されることを目標にしている。IPでは、集会所建設、Farmers group の形成、資機材回転貸付制度（PRM）があり、ASEAN 専門家、JOCV の農業技術、職業訓練がこれらを有機的に統合している。

IPはASEAN 専門家、JOCV のカウンターパートとなるカンボディア人の教育の場としての機能ももっており、今後の普及母体となる人材育成が促進されている。

特にCDWについては、カンボディア政府による身分確立と活躍の場の確保によって、カンボディアにおける農村開発の核とすることが不可欠である。

さらに、事業の継続拡大の普及母体中枢をなす農村開発省の機能強化も要求される。これは同省へのプロジェクト移管を想定した最終段階を迎えるにあたって、より積極的なプロジェクトへの参画を促すものである。

(2) 回転資機材システムの確立と農村開発省による事業展開

カンボディアの国家財政は歳出の5割以上が海外援助に依存している。また国防費が3.5割を占める状況では各省庁の予算は人件費以外ほとんどない状況であり、プロジェクト活動経費の負担は極めて困難な状況である。

このような状況下、肥料などの資材をFarmers group に貸与し、10%の利息を付して返納させる資機材回転貸付制度（PRM）を導入しており、これは今後の持続的発展の可能性を有している。

また、マニュアル作成及び参加農民への管理能力付与、PRMの運営管理指導などを今後4年間行い、円滑な農村開発省への事業移管をめざすものである。

(3) 持続可能な農村開発手法の定着

これまでは、当初の目的どおり、タケオ州、コンボンスプー州全体の生活向上のため、面的拡大による裨益効果をねらい、農村での技術普及の場としてMeeting Hutの建設とIP活動を毎年行ってきたが、今後は前述の事業方針に沿って、カンボディア側への事業移管を念頭に置き、事業の持続可能性の検証及び効果測定を行い、広範な伝播の核とすることを目標とする。

(4) 評価、モニタリング体制確立と開発手法の策定

評価モニタリングの実施は、貧困層へ与えるインパクトを明らかにするだけでなく、開発手法の向上と効果的な伝播を促すものであり、今後の重点課題である。

3. 移管に向けての計画

(1) ASEAN 専門家、JOCV の投入

これまでの ASEAN 専門家、JOCV の大量投入は広い面積での拡大に対応でき、かつ多用な職種により村を多くの角度で開発する、総合的開発事業を可能としてきた。ASEAN 専門家の投入数は、今後のプロジェクト予算の減少に伴い、来年度は各国 5 名ずつの減少され、その後も年度ごとに各国 1 名ずつ減少し、2003 年度には各国 2 名ずつ合計 8 名を計画している。しかしながら、JOCV を年間 5~8 名派遣するとともに、これまでの技術を CDW、カウンターパートに移転していくことで、これまでと同様に持続可能な活動をめざしていく。

(2) 人件費の負担 (CDW、C/P)

彼らについては将来のカンボディア農村開発の核となる人材である。彼らの育成は何よりも重要視されており、その能力の向上にさらに努力するものであるが、人件費はカンボディア側が負担することを提案していく。

(3) プロジェクト施設の運営移管

具体的には 2 つのメインセンターと 3 つのサブセンターである。まず、サブセンターから移管、プロジェクト終了時にはメインセンターを含むすべてのセンターの運営移管を完了する。運営に関する人的そして施設維持の費用についてもカンボディア側が負担することを提案する。また、活動に必要な車両・機材などについても徐々にカンボディア側へ移管・引き渡しを進めていく。

(4) プロジェクト運営の移管

最終的には、総務機能を含めたプロジェクト全体運営をカンボディア政府に移管することになるため、それに必要な事務管理能力を育成していく。加えて、データ収集能力・クレジット (PRM) の管理などの技術・ノウハウについても協力していく予定である。

(5) JICE 要員

1 2 年度から UNOPS との契約上でプロジェクトの JICE 要員 2 名 (Assistant Project Manager 2 及び Administrative Financial Officer) を、事業予算確保の必要性から Assistant Project Manager 2 の 1 名に減じることとする。

II. Tentative Budget Plan for April 2000 to March 2004

	2000.4-2001.3	2001.4-2002.3	2002.4-2003.3	2003.4-2004.3
Item Description	Total US\$	Total US\$	Total US\$	Total US\$
I. JICE International Staff	84,897.00	84,897.00	84,897.00	84,897.00
Subtotal for Item I.	84,897.00	84,897.00	84,897.00	84,897.00
II. Phnom Pehn Project Office cost				
1. Local Staff	34,408.00	25,416.00	18,416.00	18,356.00
2. Office Rental	30,000.00	16,800.00	16,800.00	16,800.00
3. Maintenance & Utilities etc.	28,950.00	15,750.00	13,470.00	10,090.00
Subtotal for Item II.	93,358.00	57,966.00	48,686.00	45,246.00
III. ASEAN experts cost				
1. Allowances	200,000.00	160,000.00	120,000.00	80,000.00
2. Insurance, Travel costs etc.	43,535.00	34,939.00	26,243.00	17,447.00
Subtotal for Item III.	243,535.00	194,939.00	146,243.00	97,447.00
IV. Technical Assistance Activities Cost				
1. Income Generating Activities	30,000.00	25,000.00	25,000.00	5,000.00
2. Education	5,000.00	4,000.00	4,000.00	2,000.00
3. CDWs and Counterparts Allowance	56,080.00	48,400.00	38,400.00	25,950.00
4. Operations / Maintenance of vehic	42,200.00	37,580.00	27,150.00	18,100.00
5. Publicity and Other Activities	1,150.00	750.00	750.00	750.00
6. General Supplies for Activities	137,500.00	120,000.00	134,000.00	118,500.00
Subtotal for Item IV.	271,930.00	235,730.00	229,300.00	170,300.00
V. Operating Cost for Centers				
1. Local Staff	136,758.00	123,722.00	78,234.00	62,754.00
2. Maintenance & Utilities etc.	51,516.48	50,916.48	31,499.04	25,783.68
Subtotal for Item V.	188,274.48	174,638.48	109,733.04	88,537.68
VI. Road Maintenance	10,000.00	10,000.00	5,000.00	5,000.00
SUB TOTAL	891,994.48	758,170.48	623,859.04	491,427.68
VII. CONTRACTOR'S OVERHEAD	47,276.00	40,184.00	33,065.00	26,046.00
UNOPS/JICE Contract	939,270.48	798,354.48	656,924.04	517,473.68
VIII. UNDP AOS	59,763.63	50,797.42	41,798.56	32,925.65
GRAND TOTAL	999,034.11	849,151.90	698,722.60	550,399.33
Inputs				
ASEAN experts	20	16	12	8
JOCV	5	8	8	8
CDW	23	20	20	20
CP	33	30	30	30
JICA experts	3	3	3	3
JICE International Staff	1	1	1	1
IP villages	RDRP 10 Mini-RDRP 20	RDRP 10 Mini-RDRP 20	RDRP 10 Mini-RDRP 20	RDRP 10 Mini-RDRP 20
PRM				
number of participating village	30	30	30	30
Investment	\$173,000	\$220,300	\$272,330	\$329,563
Return	\$17,300	\$22,030	\$27,233	\$32,956
Stock	\$190,300	\$242,330	\$299,563	\$362,519
MRD	Staff allocation for the project	Staff allocation for the project	Staff allocation for the project	Staff allocation for the project
* Amount of administrative cost will be discussed with MRD.	Personnel (CDW,C/P) expenses Administrative costs of Samrong Ton Sub Center	Personnel (CDW,C/P) expenses Administrative costs of Takeo & Kong Pisei Sub Center	Personnel (CDW,C/P) expenses Administrative costs of Takeo & Kong Pisei Sub Center	Personnel (CDW,C/P) expenses Administrative costs of Kompong Speu main center

* The Budget Plan will be reviewed at an annual budgeting in the implementation in consideration of increasing inputs of Cambodian Government for e.g. counterparts and facilities costs (Budget Item IV-3&4, V-1&2).

* It is to be noted that UNDP is concerned with some necessary additional activities such as monitoring and evaluation to be undertaken by UNDP and UNOPS, which may require additional costs. These costs will be considered at the time of an annual budgeting.

Ⅲ. 2000年 活動内容

1. 基本方針

2000年は、これまでの活動及び実績を基に、今後のプロジェクトの実施計画を策定すべき Reformulation Year と位置づける。

そのため、活動内容や範囲を拡大するのではなく、現状の把握と問題点の抽出・整理、及び参考となる他援助機関プロジェクトの調査研究を行う。また、プロジェクト対象農村における活動の実証調査に主眼を置くことを基本方針とし、以下の活動を行う。

2. Reformulation のための現状分析

(1)現状分析

- ・ タケオ・コンボンスプー州の農村の実態（組織・統計含む）・問題点を分析する。
- ・ プロジェクト対象農村の選定クライテリアを作成し、上記結果から対象農村を決定する。
- ・ MRD の計画・予算・体制・問題点などを把握し、本プロジェクト実施に影響を与える事柄を整理する。
- ・ 他援助機関によって実施されており、三角協力にとって有用なプロジェクトの調査研究を行う。

(2)その他

- ・ カンボディア側のプロジェクトへのより広範な参加を促し、効率的な事業の移管を行うため、その前提として、PM、APM2、3、4の業務内容・範囲を明確にし、移管に向けて必要となるカンボディア側スタッフの要員配置計画及びTORの策定を行う。

3. 活動：持続可能な農村開発手法の策定

活動内容とそのレベルはプロジェクト対象農村の現状を十分検討したうえで決定されなければならないが、活動方針は以下のとおりとする。

(1)Farmers Group の民主的な組織化

- ・ Farmers Group の設立目的・メンバー構成・活動内容・プロジェクトやMRDなどとの関係等をクメール語にて文章化し、農民及び関係機関の統一理解を得る。
- ・ メンバー構成については、公明・公正さに留意するため、カンボディア農村の伝統的慣習を理解のうえで、農村代表者と協議を行う。その際、女性の参加を促進する。
- ・ 本業務は既に Group を形成している農村においても適用する。
- ・ Group の活動状況をモニタリングしやすいように、あらかじめ記録項目を設定し、農民に理解させておく。

- ・定期的モニタリングの実施（指導含む）。

(2) Meeting Hut 及び Basic なインフラの住民参加による建設整備とその活用

- ・ Meeting Hut の建設趣旨・活用指針などをクメール語で文章化し（将来的に規約化する）、農民及び関係機関の統一理解を得る。
- ・プロジェクトが資材を供給、農民が建設を行うことを明確に伝え、建設状況のモニタリングを行う。
- ・ Meeting Hut の活用状況をモニタリングしやすいように、あらかじめ記録項目を設定し、農民に理解させておく。
- ・定期的モニタリングの実施（指導含む）。
- ・本プロジェクト実施に直接影響を与える Basic なインフラの状況を調査する。
- ・農民参加によるインフラ整備計画を立案し、実施に移す。
- ・インフラ整備後の裨益効果をモニタリングする。

(3) PRM 制度の導入

- ・融資方法の策定（金、物、あるいは双方）。
- ・利率の策定（10%が妥当か否か）
- ・利子返還方法の策定（金、物、あるいは双方）。
- ・利子の利用方法の策定（MRD が全額利用、Farmers Group と折半、またその利用内容）
- ・利子返還期間の策定（定額返還方式、未定額返還方式）
- ・以上を確定後、PRM マニュアル、規約、契約書の英語、クメール語で作成する。
- ・Farmers Group に十分説明のうえ、選定された農村で試験的实施に移す。
- ・既に実施している農村においても、再確認とともにモニタリングを継続し、持続可能な方法を確立していく。

(4) 新農業技術の指導

- ・農産物生産の現状と問題点を分析する。
- ・プロジェクト対象農村のターゲット作物及び導入技術を確定する。
- ・C/P あるいは CDW とともに指導を実施する。
- ・実施状況（効果・成果含む）を統一フォーマットで記録していく。
- ・次年度以降の本格実施に向けた課題等を整理し、年度ごとの目標値を設定する。
- ・化学肥料導入においては、将来有機農法への転換を念頭において実施する。

(5) 職業訓練実施

- ・村民の求職状況を把握する。

- ・農業開発に直接結びつく技術（例えば、簡易な灌漑技術など）、農村において副業に結びつく技術（例えば美容理髪、手芸など）及び農村外での就職に結びつく技術（例えば電気配線、ドレスメーカー、配管、単車整備など）を明確にしたうえで、相応の技術レベルに見合う指導計画を策定する。
- ・受講者の選定に関する基準を策定する。
- ・受講者の技術習得状況及び技術の活用状況を統一フォーマットで記録、モニタリングする。
- ・次年度以降の職業訓練分野・内容などにつき計画を策定する。

(6)教育・保健衛生の訓練・指導

- ・現状・問題点などを把握する。
- ・中・長期計画の素案を策定したうえで、本プロジェクトで成し得る範囲と内容を検討する。
- ・教育・保健衛生の重要性を農民にアピールし、プロジェクト活動への参加を促す。
- ・以上を取りまとめて、関係機関等への説明・協力依頼を行う。

4. 人材育成

(1)CDW の育成

- ・プロジェクトにおける CDW の位置づけ、身分、業務内容、報酬、就業規則などを文章（英語・クメール語）により明文化する。
- ・MRD 内における CDW の制度化について、MRD と協議を進める。
- ・現状・活動内容・成果・問題点などを含む「活動報告フォーマット」を見直して定期的に報告させ、計画立案能力と責任感の醸成を図る。

(2)C/P の育成

- ・プロジェクトにおける C/P の位置づけ、身分、業務内容、報酬、就業規則などを文章（英語・クメール語）により明文化する。
- ・各々の活動場所・内容などを協議・決定する。
- ・ASEAN 専門家、JOCV による OJT を通して関連技術の移転を行う。
- ・現行の「活動報告フォーマット」を改訂し、現状・活動内容・成果・問題点などを定期的に報告させ、技術習得度を把握する。

(3)MRD 及び地方自治体スタッフの管理能力育成

- ・プロジェクト・オフィスの管理能力を育成するため、MRD 職員及び関係スタッフへの OJT とともに、役割・責任分担を徐々に移管していく。特に経理・調達関係については、APM2 にカウンターパートを配置してノウハウの移転を図っていく。

- ・各センターの管理能力を育成するため、MRD 職員、地方自治体職員及び関係スタッフへの OJT とともに、役割・責任分担を徐々に移管していく。
- ・MRD は、2000 年度より RDRP プロジェクトの協力の下、Mini-RDRP と称するプロジェクトをタケオ、コンポンスプー両州で実施し、事業の移転を図る。

評価

- (1) これまで行ってきた活動記録の方法、評価モニタリング方法の検証を行う。
- (2) 今後、効果、効率性を測ることが可能な活動・成果の記録方法、評価モニタリング方法の策定を行っていく。
- (3) また、農民参加型の評価モニタリング方法を策定するため、より簡便な記録フォーマットを定める。
- (4) 今後の活動成果を評価するために現状値を確認のうえ、目標値を定める。

IV. 2000年4月～2004年3月までの各年計画サマリー

2000年4月～2001年3月 (Project Formulation Year)

1. 投入

- ・ JICA 専門家 3名
- ・ ASEAN 専門家 各国5名 計20名
- ・ JOCV 5名
- ・ JICE 1名
- ・ CDW 18名
- ・ C/P 30名
- ・ 百万ドル

2. 活動

- ・ 2000年3月までの活動・実績を総括したうえで、プロジェクト全体をカンボディア側に移管することを念頭に置いた実施計画を策定する。
- ・ そのため、従来の活動を拡大するのではなく、現状の把握に主眼を置き、活動はタケオ・コンボンスプー両州の農村実態調査及びプロジェクト対象農村での実証活動とする。
- ・ ASEAN 専門家の内訳は、農業12名、職業訓練6名、公衆衛生2名を目安とする。

評価

・新たに設定した記録方法、評価モニタリング方法によって活動の効果、効率を測るが、この段階では特に記録方法の周知徹底が重視される。よって、農民、CDW、C/Pなど参加者の理解度も評価対象とされる。

2001年4月～2002年3月 (Project Foundation Year 1)

1. 投入

- ・ JICA 専門家 3名
- ・ ASEAN 専門家 各国4名 計16名
- ・ JOCV 8名
- ・ JICE 1名
- ・ CDW 18名
- ・ C/P 30名
- ・ 85万ドル

2. 活動

- ・ 策定された実施計画に基づき、Farmers group の機能強化、Meeting Hut の活用促進、PRM 制度の普及、農業技術の指導徹底を行う。
- ・ 活動は CDW が中心となり、ASEAN 専門家、JOCV が補佐するという形で行う。
- ・ プロジェクトオフィスや各センターの管理も MRD、地方自治体職員が積極的に従事できる体制を取る。
- ・ ASEAN 専門家の内訳は、農業 10 名、職業訓練 5 名、公衆衛生 1 名を目安とする。
- ・ サムロントンセンターのカンボディア側への移管

3. 評価

- ・ 新たに設定した評価モニタリング方法によって活動の効果、効率を測り、活動内容の revise を行う。
- ・ 活動内容の revise に際しては、特に農村開発手法の確立という観点が重視される。

2002 年 4 月～2003 年 3 月 (Project Foundation Year 2)

1. 投入

- ・ JICA 専門家 3 名
- ・ ASEAN 専門家 各国 3 名 計 12 名
- ・ JOCV 8 名
- ・ JICE 1 名
- ・ CDW 18 名
- ・ C/P 30 名
- ・ 70 万ドル

2. 活動

- ・ 2 年間の成果を総括し、移管に向けた改善点・方法を策定する。併せて、定量的成果を基にした 2004 年のプロジェクト目標値を修正・設定する。
- ・ ASEAN 専門家の内訳は、農業 9 名、職業訓練 3 名を目安とする。
- ・ タケオ、コンピセイセンターのカンボディア側への移管

3. 評価

- ・ 特にカンボディア側への移管可能性(カンボディア側人材の習熟度及びカンボディア関係省庁、地方自治体の実施体制)が重視される。よってここにいたっては持続可能な農村開発手法は、評価モニタリングによって十分有効であることが明らかになる。

2003年4月～2004年3月 (Project Transfer Year)

1. 投入

- ・ JICA 専門家 3名
- ・ ASEAN 専門家 各国名 計8名
- ・ JOCV 8名
- ・ JICE 1名
- ・ CDW 18名
- ・ C/P 30名
- ・ 55万ドル

2. 活動

- ・ プロジェクト全体をカンボディア側に全面移管する年であり、カンボディア側スタッフ (MRD 職員、地方自治体職員、CDW など) が全面的に活動・運営を行う。
- ・ カンボディア側スタッフへの助言を行い、離陸の準備を整える。また、プロジェクト目標値を達成すべく、モニタリングに力をいれる。
- ・ ASEAN 専門家の内訳は、農業6名、職業訓練2名を目安とする。
- ・ コンボンスプーセンターのカンボディア側への移管

3. 評価

- ・ 移管後のカンボディア側によるプロジェクト運営のフィージビリティが重視される。

4か年計画事業概要（2000年4月～2004年3月）

年度	2000年4月～2001年3月 Project Formulation Year	2001年4月～2002年3月 Project Foundation Year 1	2002年4月～2003年3月 Project Foundation Year 2	2003年4月～2004年3月 Project Transfer Year
事業方針	<ol style="list-style-type: none"> 2000年3月までの活動・実績を総括したうえで、プロジェクト全体を移管することを念頭に置いた実施計画を策定する。 そのため、従来の活動を拡大するのではなく、現状の把握に主眼を置き、活動はタケオ・コンボンスプー両州の農村実態調査及びプロジェクト対象農村での実証活動とする。 ASEAN 専門家の内訳は、農業12名、職業訓練6名、公衆衛生2名。 	<ol style="list-style-type: none"> 策定された実施計画に基づき、Farmers group の機能強化、Meeting Hut の活用促進、PRM 制度の普及、農業技術の指導徹底を行う 活動は CDW が中心となり、ASEAN 専門家、JOCV が補佐する。 プロジェクトオフィスや各センターの管理も MRD、地方自治体職員などが積極的に従事できる体制を取る。 ASEAN 専門家の内訳は、農業10名、職業訓練5名、公衆衛生1名。 	<ol style="list-style-type: none"> 2年間の成果を総括し、移管に向けた改善方法を策定する。併せて、定量的成果を基にした 2004 年のプロジェクト目標値を修正・設定する。 ASEAN 専門家の内訳は、農業9名、職業訓練3名。 	<ol style="list-style-type: none"> プロジェクト全体をカンボディア側に全面移管する年であり、カンボディア側スタッフ（MRD 職員、地方自治体職員、CDW など）が全面的に活動・運営を行う。 カンボディア側スタッフへの助言を行い、離陸の準備を整える。プロジェクト目標値を達成すべく、モニタリングに力をいれる。 ASEAN 専門家の内訳は、農業6名、職業訓練2名。
評価のポイント	<ol style="list-style-type: none"> 新たに設定した記録方法、評価モニタリング方法によって活動の効果、効率をはかるが、この段階では特に記録方法の周知徹底が重視される。 農民、CDW、C/P など参加者の理解度も評価対象とされる。 	<ol style="list-style-type: none"> 新たに設定した評価モニタリング方法によって活動の効果、効率をはかり、活動内容の revise を行う。 活動内容の revise に際しては、特に農村開発手法の確立という観点が重視される 	<ol style="list-style-type: none"> 特に移管可能性（人材の習熟度及び関係省庁、地方自治体の実施体制）が重視される。 ここにいたっては持続可能な農村開発手法は、十分有効であると実証されることが求められる。 	<ol style="list-style-type: none"> 移管後におけるプロジェクト運営のフィードバックが重視される。
投入計画				
ASEAN 専門家	20	16	12	8
JOCV	5	8	8	8
CDW	18	18	18	18
C/P	30	30	30	30
JICA 専門家	3	3	3	3
JICR 要員	1	1	1	1
IVM 活動 実施対象村	30	30	30	30
MRD	プロジェクトへの職員配置 CDW、C/P の人件費負担	サムロントン・サブセンター移管 プロジェクトへの職員配置 CDW、C/P の人件費負担	タケオ/コンピセイ・サブセンター移管 プロジェクトへの職員配置 CDW、C/P の人件費負担	コンボンスプーセンター移管 プロジェクトへの職員配置 CDW、C/P の人件費負担

カンボディア王国 難民再定住・農村開発プロジェクト（三角協力）PDM 協力期間：2000.4～2004.3（4年間）

日本側実施機関：外務省・JICA・JICE

協力機関：UNDP・ASEAN 諸国（インドネシア・マレーシア・フィリピン・タイ）

相手国側実施機関：カンボディア農村開発省

対象地域：コンボンスプー・タケオ両州

プロジェクト要約	指標	指標データ入手手段	外部条件
上位目標			
プロジェクト対象地域外に、持続的農村開発手法が適用されるとともに、コンボンスプー、タケオ州における貧困が緩和される	コンボンスプー、タケオ州における貧困層割合（%） 持続的農村開発手法の導入された、プロジェクト対象外の農村数	計画省等の統計 モニタリング調査	a. 経済社会状況が悪化しない b. 大規模な自然災害が発生しない
プロジェクト目標			
カンボディア政府によって、プロジェクト対象農村において自立的に持続的農村開発手法が実践される	プロジェクト対象農村における貧困層割合（%） 収入向上（農業収入、農業外収入） 持続的農村開発手法の管理能力を持つカンボディア人スタッフの人数	計画省等の統計 モニタリング調査 フォローアップ調査	a. 農村開発政策の抜本的な変更がない
成果			
持続的農村開発手法が確立される 1. カンボディア政府、地方自治体によるプロジェクト運営が行われるよう機構改革、強化が行われる 2. IVM 活動実施農村において活動が実践され、また維持される 3. MRD 農村開発事業が選定された村で設定目標を達成される	1. MRD 等関係行政機関の予算額、実施体制(人員、業務内容)の検証 2. 本プロジェクトに肯定的な農民数/活動参加農民数/全農民数 3. 新技術の導入による農産物生産量の変化など 4. Farmers Group の活動状況(グループ数、メンバー数、活動内容) 5. Meeting Hut の利用頻度、利用内容 6. PRM 利用率、回収率、利子率、利子の活用内容 7. 職業訓練受講者数、レベル、求職者数 8. 教育/保健衛生研修受講者数	1. 関係行政機関資料 2. モニタリング&ピアリング調査 3. 各農家における収穫量調査 4. グループ活動報告書 5. Meeting Hut 利用台帳 6. PRM 管理台帳 7. 参加者台帳&フォローアップ調査 8. 参加者台帳	a. 農村開発政策への優先度が維持される b. 農村開発予算が増加する(減少しない)
活動		投入	
1-1. MRD 及び地方自治体スタッフの管理能力育成 2-1. Farmers group の民主的な組織化 2-2. Meeting Hut 及び Basic なインフラ(主に生活道路等)の住民参加による建設整備とその活用 2-3. PRM 制度の導入 2-4. 新農業技術、識字教育、公衆衛生などの指導 2-5. 教育活動実施 2-6. 職業訓練実施 3-1. MRD 農村開発事業が選定された村で実施される	1. ASEAN Experts 8～20名 2. JICA Experts 3名 3. JOCV Members 5～8名 4. JICE Staff 1名 5. UNDP Funds US\$ 1mil 6. Other Funds 2年目より不足分 <カンボディア側> 1. カウンターパート 2. CDW	a. 農業以外の雇用機会増大(民間企業の参加) b. 教育省、保健省などの協力 c. MRD など関係行政機関の予算・実施体制の維持・拡大 d. 農民の組織活動を阻害する行政介入などが発生しない e. CDW などがカンボディア側関係者(農民を含む)が現職場にとどまる	前提条件

Transition Plan Stage up to March 2004

- I . Transition Plan Stage up to March 2004
- II . Tentative Budget Plan for April 2000 to March 2004
- III .Activities of 2000
- IV .Project Summary : April 2000 to March 2004
- V .Project Design Matrix (4 years)

March 2000

RDRP Project Management
Phnom Penh
Cambodia

I . Transition Plan Stage up to March 2004

This project has been implemented since 1994. We understand that this project has continuously contributed to the resettlement of refugee and rural development in the project site situated in Kompong Speu and Takeo provinces, despite of evacuation of ASEAN experts and delay of the implementation schedule caused by the war-torn situation in 1997 and political instability after the general election in 1998.

Cambodian political situation has been stabilized. Our understanding is that now is the time to set a transitional stage for Cambodian government to take over this project in the near future. Therefore the sustainable and self-reliable system should be established in this stage for smooth transition and the further development by Cambodian government after this transitional stage.

The Transition Plan has been made for 4 years to cover, however the third year (2000) of Phase III constitutes the Reformulation Year of the Transition Plan, hence the actual transitional activities in Phase IV will commence in April 2001.

The fiscal year 2000 is to be the reformulation year for smooth transition of the project. In this proposing transitional program, instead of expanding the cooperation program and project area we have done so far, we should focus on analyzing, drawing lessons and consolidating the current achievement, also carrying out a survey of some aid organization project as reference. Moreover in order to exercise the feasibility and sustainability of the transitional program, any activities in project site will be monitored deliberately much more than before.

The followings are the core concept for this transitional stage.

1. Necessity and background of this transition plan up to March 2004

According to project document, this project is principally to aim at the improvement living conditions in the two provinces mainly through rural development activities for poverty alleviation. Target beneficiaries in this project are demobilized soldiers as well as forced migrated people and local people. Inputs by the project have promoted the resettlement and contributed improvement of living conditions in the two provinces.

Agricultural sector has shared 40% added value of GDP, 85% of population living in the rural area are still tackling poverty. In this context, we understand

the necessity to continue our cooperation program in two provinces as ever. Moreover the overall goal in the next four years is to establish our development methodology that contributes to poverty alleviation in two provinces. It is our honor that this rural development methodology may contribute to the future replication of this project in other provinces by Cambodian government, moreover rural development and poverty alleviation in all Cambodia.

2. Summary of this transition plan

(1) To strengthen capacity building & self-reliance by human resources development

Cambodian rural area have severely suffered from long lasting internal war and we can see the function of village have been destroyed everywhere in this country. This project mainly has implemented 'Integrated Program (IP)' in the villages of project site. This IP aims the comprehensive rural development through multi-sectoral technical assistance provided by ASEAN experts and JOCV.

Then voluntary and democratic participation of villagers is enhanced in order to develop an ability to absorb external assistance, which would be a basis for further development in their impoverished villages.

Activity of IP is composed of construction of Meeting Hut, organizing Farmers Group and Partners Revolving Fund (PRM). Agricultural and the other training, which are provided by ASEAN experts and JOCV, integrate these activities organically.

IP has also contributed to education of Cambodian staffs who are counterparts of ASEAN experts and JOCV for enhancement of their extension roll.

In particular CDW will have the key roll to demonstrate rural development know-how. This is realized on condition that Cambodian government authorizes their qualification and assigns them the places to be developed.

So far, the project focuses on the activities to directly benefit the villagers based on the grass roots approach. Contrary to that, in this transition program, we will focus on the activities to improve institutional ability of the Ministry of Rural Development (MRD) and other concerning authorities as the responsible organizations to take over the project and encourage the ministry to enhance its contribution to the project.

(2) Establishment of the sustainable development system

Over 50% of National expenditure of Cambodia has depended on overseas assistance and of which the military expenditure shares 35%. Therefore ministries have only the budget for its personnel but almost none for its operation.

Under such circumstance, PRM has been implemented as one means for securing sustainability. In this scheme, the project provides so-called revolving materials such as fertilizer, piglet to the villagers groups, which is voluntary and democratically formed with around 10 neighbors. The participants have to pay back cash or in-kind with 10% interest to their group and the group manages the fund. Usage of this fund is decided democratically among them.

In this transition plan, the project will assist institution building of MRD in order to develop his ability to manage PRM as well as developing implementation manual and assisting self-reliable activities of Farmers Group for smooth transition of IP program to Cambodian authorities.

(3) Establishment of Mini-RDRP(Mini-IVM)

MRD proved that the Integrated Village Management (IVM) method is one of the efficient and promising methods for the alleviation of poverty in Cambodia. Based on the experience, the MRD decided to introduce this method into Cambodian rural areas as Mini-RDRP (Mini-IVM).

In order to transfer IVM method and experience of RD-RP to MRD, RDRP works on IVM together with MRD.

(4) Establishment of sustainability and effectiveness of the methodology

As mentioned in the Project Document, this project has contributed poverty alleviation in the two provinces through tripartite cooperation, which expands participating villages horizontally which is initiated by construction Meeting Hut, as a center for extension activities, and accordingly IP activities are implemented.

In this plan, we will concentrate on monitoring and evaluation the sustainability and effectiveness of the methodology. As a result, the participating villages are expected to be the basis for dissemination of the methodology.

(5) Establishment of evaluation & monitoring system and improving the development methodology

According to the Project Document, outputs of this project will be indicated by many kinds of quantity, which mainly prove the horizontal expansion of the project.

However in order to measure the impact on beneficiaries, other kinds of indicators should be applied, which show effectiveness and efficiency of the activities. These qualitative measurers will be helpful for further betterment and dissemination of this methodology.

3. Inputs plan for transition

Localization of the whole project management is crucial for the sustainability and self-reliance of Cambodian government.

In order to secure project activities in diminishing the budget, Cambodian side would share project costs, such as counterparts' salary, running cost of project office and other facilities from FY2000 gradually.

(1) ASEAN experts, JOCV

In the light of the draft transition program, the number of ASEAN experts should be decreased to 20, which means 5 from 4 countries in fiscal 2000, and the following years, the number will be reduced one by one from each county. JOCV will be dispatched 5 to 8 persons in each year for continuing their activities and transferring their techniques to CDW and C/P.

(2) Number of IP Villages

In order to transfer the project to the Cambodian side smoothly under the reduction of the budget, we will not expand the cooperation program itself as we did before.

However, the transition program which will include the training of CDW and C/P needs to be implemented in new villages because the first stage input such as construction of the Meeting Hut and PRM introduction will require time, labour and techniques.

Mini-RDRP(Mini-IVM) by MRD will be implemented in 20 villages every year. CDW will take a leading part of the project and ASEAN Experts; JOCV will support the activities.

Also, RDRP will be implemented in 10 villages every year. New CDW will be

trained through the technical transfer to C/P.

(3) Number of CDW

Over 50 persons of CDW has been trained up to the present. Some of them returned to their former workplace and others will participate in Mini-RDRP(Mini-IVM) from 2000.

The number of CDW in RDRP will be limited around 20 each year due to the limitation of budget (personnel expenses).

(4) Cambodian counterparts' costs

The project has especially contributed to education of Cambodian staffs for enhancement of their extension roll. Actually CDW and C/P will have the key roll to demonstrate rural development know-how, therefore the project continuously stress on their training in this transitional program.

And sharing the cost of Cambodian counterparts is also needed to increase gradually for retaining these trained human resources.

(5) Running cost of facilities

This project is allowed to use two main centers and three sub-centers and pay running costs of these facilities. To begin with, the project transfers the management know-how of sub-centers to Cambodian side. Finally at the end of this project, Cambodian government would manage all these centers with facilitating all staffs cost and running costs.

(6) Transferring the project management

Also in the transition plan, management know-how of the project activities will be shifted to Cambodian government. Data collection and its analysis, management of PRM, administrative and financial skills. Competitive Cambodian staffs should be assigned for on-the-job training.

(7) JICE International Staff

For smooth transition to Cambodian government we should secure activities costs as much as possible and we have to cut regular expenses such as two JICE staffs (Assistant Project Manager 2 and Administrative Financial Officer) as well as operating cost of centers and so on.

Therefore we will reduce one JICE stationed staff in Cambodia from two to one

(Assistant Project Manager 2). Of course this does not mean the diminishing the service JICE have provided so far.

II .Tentative Budget Plan for April 2000 to March 2004

	2000.4-2001.3	2001.4-2002.3	2002.4-2003.3	2003.4-2004.3
Item Description	Total US\$	Total US\$	Total US\$	Total US\$
I. JICE International Staff	84,897.00	84,897.00	84,897.00	84,897.00
Subtotal for Item I.	84,897.00	84,897.00	84,897.00	84,897.00
II. Phnom Pehn Project Office cost				
1. Local Staff	34,408.00	25,416.00	18,416.00	18,356.00
2. Office Rental	30,000.00	16,800.00	16,800.00	16,800.00
3. Maintenance & Utilities etc.	28,950.00	15,750.00	13,470.00	10,090.00
Subtotal for Item II.	93,358.00	57,966.00	48,686.00	45,246.00
III. ASEAN experts cost				
1. Allowances	200,000.00	160,000.00	120,000.00	80,000.00
2. Insurance, Travel costs etc.	43,535.00	34,939.00	26,243.00	17,447.00
Subtotal for Item III.	243,535.00	194,939.00	146,243.00	97,447.00
IV. Technical Assistance Activities Cost				
1. Income Generating Activities	30,000.00	25,000.00	25,000.00	5,000.00
2. Education	5,000.00	4,000.00	4,000.00	2,000.00
3. CDWs and Counterparts Allowance	56,080.00	48,400.00	38,400.00	25,950.00
4. Operations / Maintenance of vehic	42,200.00	37,580.00	27,150.00	18,100.00
5. Publicity and Other Activities	1,150.00	750.00	750.00	750.00
6. General Supplies for Activities	137,500.00	120,000.00	134,000.00	118,500.00
Subtotal for Item IV.	271,930.00	235,730.00	229,300.00	170,300.00
V. Operating Cost for Centers				
1. Local Staff	136,758.00	123,722.00	78,234.00	62,754.00
2. Maintenance & Utilities etc.	51,516.48	50,916.48	31,499.04	25,783.68
Subtotal for Item V.	188,274.48	174,638.48	109,733.04	88,537.68
VI. Road Maintenance	10,000.00	10,000.00	5,000.00	5,000.00
SUB TOTAL	891,994.48	758,170.48	623,859.04	491,427.68
VII. CONTRACTOR'S OVERHEAD	47,276.00	40,184.00	33,065.00	26,046.00
UNOPS/JICE Contract	939,270.48	798,354.48	656,924.04	517,473.68
VIII. UNDP AOS	59,763.63	50,797.42	41,798.56	32,925.65
GRAND TOTAL	999,034.11	849,151.90	698,722.60	550,399.33
Inputs				
ASEAN experts	20	16	12	8
JOCV	5	8	8	8
CDW	23	20	20	20
CP	33	30	30	30
JICAexperts	3	3	3	3
JICE International Staff	1	1	1	1
IP villages	RDRP 10 Mini-RDRP 20	RDRP 10 Mini-RDRP 20	RDRP 10 Mini-RDRP 20	RDRP 10 Mini-RDRP 20
PRM				
number of participating village	30	30	30	30
Investment	\$173,000	\$220,300	\$272,330	\$329,563
Return	\$17,300	\$22,030	\$27,233	\$32,956
Stock	\$190,300	\$242,330	\$299,563	\$362,519
MRD	Staff allocation for the project	Staff allocation for the project	Staff allocation for the project	Staff allocation for the project
* Amount of administrative cost will be discussed with MRD.	Personnel (CDW,C/P) expenses Administrative costs of Samrong Ton Sub Center	Personnel (CDW,C/P) expenses Administrative costs of Takeo & Kong Pisei Sub Center	Personnel (CDW,C/P) expenses Administrative costs of Kompong Speu main center	Personnel (CDW,C/P) expenses Administrative costs of Kompong Speu main center

* The Budget Plan will be reviewed at an annual budgeting in the implementation in consideration of increasing inputs of Cambodian Government for e.g. counterparts and facilities costs (Budget Item IV-3&4, V-1&2).

* It is to be noted that UNDP is concerned with some necessary additional activities such as monitoring and evaluation to be undertaken by UNDP and UNOPS, which may require additional costs. These costs will be considered at the time of an annual budgeting.

III. Activities of 2000

1. Principal Policy

The fiscal year 2000 is to be the reformulation year for smooth transition of the project. Instead of expanding the cooperation program, we should focus on analyzing, drawing lessons and consolidating the current achievement, also investigating other successful relevant programs implemented by other donors. Moreover in order to exercise the feasibility and sustainability of the program, any activities and impact will be monitored quantitatively and deliberately.

2. Analyzing the achievements for reformulation

(1) Fact finding

Survey the present living condition, structure and problems of the villages in Kompong Speu and Takeo province.

Establish the criteria for choosing the village to be involved, then select the villages by this.

Survey the policy, budget, structure and problems of MRD and to find the issues that may cause some influence over the reformulation.

Also investigate other successful relevant programs implemented by other donors for the betterment of the reformulation.

(2) Others

To enhance the enrollment of Cambodian side widely and to transfer this program efficiently, Clarification of terms of reference of Project Manager, Assistant Project Manager (2,3,4) should be made. Accordingly clarification of terms of reference of Cambodian staffs and a plan for assignment of these Cambodian staff will be made.

3. Activities

The followings are core concept for activities, of which the detail and level are to be defined after deliberate analysis of the villages in the project site beforehand.

(1) Participation of local government

In order to promote the administrative management of the Project, participation of concerned local government will be necessary.

Define certain organization and discuss their participation to the Project.

Anticipated administrative management line will be Development Committee Line such as Farmers Group-VDC-CDC-DDC-PCC-MRD.

(2) Organizing Farmers group in democratic way

Develop a guideline for its formation, in which the aim of establishment, structure, membership, activities, the relationship with MRD and other concerning organizations are defined. For more comprehensive understanding, the guideline should be written in Khmer

Structure and membership of Farmers Group should be consulted with village leaders for securing accessibility and accountability in the light of traditional customs and manners in Khmer society. And participation of women should be promoted.

In order to monitor the activities of Farmers Group, simple recording rules are made and instructed to the villagers beforehand.

Above mentioned methodology will be applied to the currently participating village groups.

(3) Construction of Meeting Hut and some other basic facilities through participatory methodology and their utilization

The guideline for construction of Meeting Hut is defined, in which the aim and regulations of usage are contained. For more comprehensive understanding among villagers and concerning organizations, the guideline should be written in Khmer.

The villagers should be learned that the Project provides construction materials and the participating villagers construct the Meeting Hut by themselves under supervision of the Project and accordingly the Project will monitor their activities.

In order to monitor the activities of Farmers Group, simple recording rules are made and instructed to the villagers beforehand.

Survey the condition of the basic infrastructure in the villages may cause negative impact on project activities.

Make a plan for betterment of such basic infrastructure with villagers. The villagers carry out the plan under supervision of the Project.

Monitor the impact after the activities accordingly.

(4) Introduction of Partners Revolving Fund

rules and regulations of financing PRM in which the followings are defined

- interest rate
- repayment means of interest and repayment period
- regulation of utilization of interest
- the rules and regulations should be written in Khmer

Instruct the system of PRM to the participating Farmers group and carry out under supervision of the Project.

Monitor and evaluate the use of PRM by the Farmers Group and revise the system for securing sustainability, if necessarily. Also the monitoring and evaluation will be done in the currently participating villages.

(5) Introduction of new agricultural techniques

Survey the present situation and problems of the agricultural production

Clarify the promising products and the appropriate techniques for these products.

Instruct the techniques to the villagers with CDW and C/P.

In order to monitor the productivity, recording rules are made and instructed to the villagers beforehand.

Set the target goal in each following year.

Chemical fertilizer will be instructed in consideration with converting to organic fertilizer later on.

(6) Introduction of vocational training

Survey the situation of job hunting in the villages.

Clarify techniques for agricultural development (such as civil engineering, irrigation), income generating within a village (such as handcraft, hair dressing) and job hunting out of a village (such as dressmaking, electrical works, piping, motorcycle repairing), then make an instruction plan which is suit for the villagers' ability.

Gain careful and rigorous regulations for selecting villagers.

In order to monitor easily the attainment of the villagers and utilization of their skill, simple recording rules are made and instructed to the villagers beforehand.

Set the target goal in each following year

(7) Promotion of education and public health

Survey the present situation and problems in the project site

Identify the field which ASEAN experts and JOCV can cooperate and then make an implementation program.

Disseminate the importance of education and health, then enhance enrollment of villagers to the program.

Enhance the cooperation with concerning Cambodian authorities for betterment of the program.

4. Human resources development

(1) CDW

The comprehensive written rules are made in English also in Khmer, in which

their position in the Project, status, terms of reference, salary, working regulations and others are defined.

Authorization of CDW as of a MRD extension official is considered.

In order to enhance their planning ability and sense of responsibility, regular reporting system will be introduced, in which CDW should clarify the present situation, their activities, attainment and problems.

(2)C/P

The comprehensive written rules are made in English also in Khmer, in which their position in the Project, status, terms of reference, salary, working regulations and other relevant matters are defined.

ASEAN experts and JOCV transfer their technologies to C/P through OJT

In order to realize their improvement, regular reporting system will be introduced, in which C/P should clarify the present situation, their activities, attainment and problems.

(3) Strengthening Cambodian management

Cambodian counterparts to the Project Manager and Assistant Project Managers should be assigned. Especially, APMs should transfer whole management of the project gradually to Cambodian counterpart.

Cambodian side staffs should be assigned for transferring the management of each center through OJT gradually.

MRD has a plan to implement Mini-RDRP project in Takeo and Kompong Speu provinces in collaboration with our project from this fiscal year.

5. Monitoring and Evaluation

Analyze, draw lessons and consolidate the current methodology of recording, monitoring and evaluation.

Gain a methodology to record, monitor and evaluate the activities from which

we can evaluate the effects and efficiencies, and set the target with their results in the light of the present situation.

Gain the simple recording format in order to enhance the villagers' participation to monitoring and evaluation.

IV. Project Summary: April 2000~March 2004

April, 2000~March, 2001 (Project Reformulation Year)

1. Input

JICA Experts	3
ASEAN Experts	5/country = Total 20
JOCV	5
JICE	1
CDW	23
C/P	33
US \$ 1,000,000	

2. Activities

Set up a transition program after summarizing our activities and achievements up to March 2000 in order to transfer the whole project to the Cambodian side.

Without extending our regular activities, give priority to understanding present circumstances in Takeo/Konpong Speu provinces and to evaluate the activities in the villages.

The following is a standard of the number of ASEAN Experts in each field: Agriculture 12, Vocational Training 6 and Public Health 2.

3. Evaluation

Evaluate the effects and efficiencies by the newly applied recording/monitoring system. At this stage, especially the recording methodology should be completely understood. Therefore, how much the participants (e.g. Farmers, CDW and C/P) understand the system will be also evaluated.

April, 2001~March, 2002 (Project Transition Year 1)

1. Input

JICA Experts	3
ASEAN Experts	4 /country Total 16
JOCV	8
JICE	1
CDW	20

C/P
US \$ 850,000

30

2. Activities

Based on the transition plan, develop Farmers Group's productivity, utilize Meeting hut, popularize PRM System, and instruct agricultural techniques thoroughly.

In our activities, CDV will take a leading part and ASEAN experts and JOCV will assist them.

For the project office/center management, apply a system under which staff (e.g. MRD and community service staffs) can actively participate.

The following is a standard of number of ASEAN Experts in each field: Agriculture 10, Vocational Training 5 and Public Health 1.

Transfer the management of Samrong Ton Sub Center to the Cambodian side.

3. Evaluation

Evaluate the effects and efficiencies of the activities by a newly developed recording/monitoring methodology, and revise the contents of the activities, if necessary.

When revising the activities, make importance of establishing an effective rural development technique.

April, 2002~March, 2003 (Project Transition Year 2)

1. Input

JICA Experts	3
ASEAN Experts 3/country = Total	12
JOCV	8
JICE	1
CDW	20
C/P	30
US \$ 700,000	

2. Activities

Based on our achievement of the past two years, establish an effective methodology for the transfer. Also, revise and set up the project target indicators for 2004 based on the monitoring results.

The following is a standard of number of ASEAN Experts in each field: Agriculture 9, Vocational Training 3.

Transfer the management of Takeo Sub Center and Kong Pisei Sub Center to the Cambodian side.

3. Evaluation

Feasibility of transferring the project to the Cambodian side has to be concerned. Thus, it is important to know if Cambodian staff can understand the methodology and if the Cambodian ministries/local government have an administrative structure for implementing the project. Therefore, a sustainable rural development has to be proved functional by monitoring and evaluation at this stage.

April, 2003~March, 2004 (Project Transition Year 3)

1. Input

JICA Experts	3
ASEAN Experts 2/country = Total	8
JOCV	8
JICE	1
CDW	20
C/P	30
US \$ 550,000	

3. Activities

The whole project activities will be transferred to the Cambodian side completely during this year. The local staff (e.g. MRD staff, local government staff, CDW) will handle the overall management.

All project staff will assist Cambodian staff for their taking off. Also, emphasize

monitoring in order to achieve the project goal.

The following is a standard of number of ASEAN Experts in each field:
Agriculture 6, Vocational Training 2.

Transfer the management of Kompong Speu Main Center to Cambodian side.

3. Evaluation

Feasibility of the project management by the Cambodian side after the transfer is especially important.

IV. Project Summary (tentative)

	2000.4-2001.3	2001.4-2002.3	2002.4-2003.3	2003.4-2004.3
	Project Reformulation	Project Foundation 1	Project Foundation 2	Project Transfer
	<p>2000 is the reformulation year when the transition plan would be enacted which is based on the accrued experience.</p> <p>Understand the existing situation, point out problems and carry out a survey of some aid organizations' projects as references. Also put emphasis on evaluation of the activities.</p> <p>Gain a method to record or monitor the activities from which we can evaluate the effects and efficiencies, and set the target with their results.</p> <p>Evaluate the effects and efficiencies of the activities with newly developed recording or monitoring methods.</p> <p>At this stage, recording method should be completely understood, therefore, any participants' knowledge (such as farmer's, CDW's or C/P's) of this method would be included as an evaluation factor.</p>	<p>Evaluate the effects and efficiencies of the activities by a newly developed monitoring method, and revise the contents of the activities, if necessary.</p> <p>On revising process, make importance of establishing an effective technique for rural development.</p>	<p>Feasibility of transforming the project to the Cambodian side has to be concerned. Thus, it is important to know if Cambodian staff can understand the methods, and if Cambodian ministries/local governments have an administrative structure for implementing the project.</p> <p>Therefore, a technique for sustainable rural development has to be proved functional by monitoring at this stage.</p>	<p>To evaluate the project, feasibility of project operation after transforming to the Cambodian side would be significant.</p>
Input plan				
ASEAN experts	20	16	12	8
JOCV	5	8	8	8
CDW	18	18	18	18
C/P	30	30	30	30
JICA experts	3	3	3	3
JICE staff	1	1	1	1
The number of villages where IP would be implemented				
Village	30	30	30	30
PRM numbers of participating Farmers group	30	30	30	30
Investment	\$173,000	\$220,300	\$272,330	\$329,563
Return	\$17,300	\$22,030	\$27,233	\$32,956
Stock (Accrued asset)	\$190,300	\$242,330	\$299,563	\$362,519
MRD	Staff allocation for the project	Staff allocation for the project	Staff allocation for the project	Staff allocation for the project
	Personnel expenses	Personnel (CDW,C/P) expense	Personnel (CDW,C/P) expense	Personnel (CDW,C/P) expense
		Administrative costs	Administrative costs	Administrative costs

*Regarding PRM, investment of 2000.4-2001.3 includes the accrued stock up to 2000.3.

V. Project Design Matrix (4 years)

Narrative Summary	Objectively verifiable indicators	Means of verification	Important assumptions																																																																	
Overall goal																																																																				
Sustainable rural development methods are applied and extended to other communes and villages, which were not covered by the project in Kompong Speu and Takeo provinces, thereafter poverty in these 2 provinces is reduced.	<ol style="list-style-type: none"> Percentage of poverty group in the states (%) The number of village, in which the sustainable rural development methods have been applied, but which were not covered by the project. 	<ol style="list-style-type: none"> Statistics of MOP etc. Monitoring 	<ol style="list-style-type: none"> No deterioration of social and economic condition. No environmental disaster on a large scale 																																																																	
Project purpose																																																																				
Sustainable rural development methods are practiced and managed by the Cambodian Government and its staff in the selected communes and villages.	<ol style="list-style-type: none"> Percentage of poverty group in the villages involved in the project (%) Improvement of income (by agriculture and extra-agriculture) The number of Cambodian staff who can manage the sustainable rural development methods. 	<ol style="list-style-type: none"> Statistics of MOP etc. Monitoring Follow-up 	No drastic change of a rural development policy																																																																	
Outputs																																																																				
<p>Sustainable rural development methodology is established.</p> <ol style="list-style-type: none"> Institutional project management system is restructured and strengthened. Each planned IP village achieves and maintained six important elements as expected. Mini-RDRP succeeds in achieving the targeted elements in the selected villages. Guideline and the procedure for sustainable Rural Development Methodology are developed. 	<ol style="list-style-type: none"> Budget for the involved administrative bodies (MRD etc.) and verification of the framework for implementation The number of farmer supporting the project / involved in the project / total farmers Increase and decrease of agricultural production caused by introduction of new technologies Survey of Farmers Group (the number of Group/ the number of member/ their tasks) Frequency and object of using Meeting Hut The rates of use, recall and interest of PRM / Usage of the interest The number of participants in the vocational training / Their level / The number of job seeker The number of participants in the training for education and health 	<ol style="list-style-type: none"> Data of the involved administrative bodies Monitoring & Hearing Survey of crop in each family Reports of group activities Records for the use of Meeting Hut Records for PRM administration Records and follow-up of participants Records of participants 	<ol style="list-style-type: none"> Keeping the priority of rural development policy Increase of budget for rural development (or no decrease) 																																																																	
Activities	Inputs																																																																			
<ol style="list-style-type: none"> Administrative training of MRD and local government staff Organizing Farmers Group In democratic way Construction of Meeting Hut and basic infrastructure (mainly road for daily-life) by resident participation and it's utilization Introduction of PRM Guidance of new agricultural technologies Introduction of vocational training Promotion of education and public health Mini-RDRP is implemented by MRD in the selected villages. 	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">2000</th> <th style="text-align: center;">2001</th> <th style="text-align: center;">2002</th> <th style="text-align: center;">2003</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. ASEAN Experts</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td>2. JICA Experts</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>3. JOCV Members</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td>4. JICE staff (1)</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>5. UNDP Funds</td> <td style="text-align: center;">Appro. US\$ 1,000,000</td> <td style="text-align: center;">850,000</td> <td style="text-align: center;">700,000</td> <td style="text-align: center;">550,000</td> </tr> <tr> <td>6. Other Funds</td> <td style="text-align: center;">Undecided</td> <td style="text-align: center;">Undecided</td> <td style="text-align: center;">Undecided</td> <td style="text-align: center;">Undecided</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: left;"><Cambodian Side></td> </tr> <tr> <td>1. Counterparts</td> <td style="text-align: center;">33</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td style="text-align: center;">30</td> </tr> <tr> <td>2. CDW</td> <td style="text-align: center;">23</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td>3. APM</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: left;"><Facilities Transfer></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">Samrong Ton Sub Center</td> <td style="text-align: center;">Takeo & Kong Pisei Sub Center</td> <td style="text-align: center;">Kompong Speu Main Center</td> </tr> </tbody> </table>			2000	2001	2002	2003	1. ASEAN Experts	20	16	12	8	2. JICA Experts	3	3	3	3	3. JOCV Members	5	8	8	8	4. JICE staff (1)	1	1	1	1	5. UNDP Funds	Appro. US\$ 1,000,000	850,000	700,000	550,000	6. Other Funds	Undecided	Undecided	Undecided	Undecided	<Cambodian Side>					1. Counterparts	33	30	30	30	2. CDW	23	20	20	20	3. APM	1	1	1	1	<Facilities Transfer>							Samrong Ton Sub Center	Takeo & Kong Pisei Sub Center	Kompong Speu Main Center	<ol style="list-style-type: none"> Increase of other employment than agricultural sector Cooperation by the Ministry of Education and the Ministry of Health Keeping and expanding of the budget and system of the involved administrative bodies (MRD etc.) No intervention to organized farmers' activities by the authorities Settlement of concerned Cambodian side (CDW etc., Incl. Farmers)
	2000	2001	2002	2003																																																																
1. ASEAN Experts	20	16	12	8																																																																
2. JICA Experts	3	3	3	3																																																																
3. JOCV Members	5	8	8	8																																																																
4. JICE staff (1)	1	1	1	1																																																																
5. UNDP Funds	Appro. US\$ 1,000,000	850,000	700,000	550,000																																																																
6. Other Funds	Undecided	Undecided	Undecided	Undecided																																																																
<Cambodian Side>																																																																				
1. Counterparts	33	30	30	30																																																																
2. CDW	23	20	20	20																																																																
3. APM	1	1	1	1																																																																
<Facilities Transfer>																																																																				
		Samrong Ton Sub Center	Takeo & Kong Pisei Sub Center	Kompong Speu Main Center																																																																
			Pre-conditions																																																																	
			Keeping cooperation by ASEAN, Cambodia, Japan and UNDP																																																																	